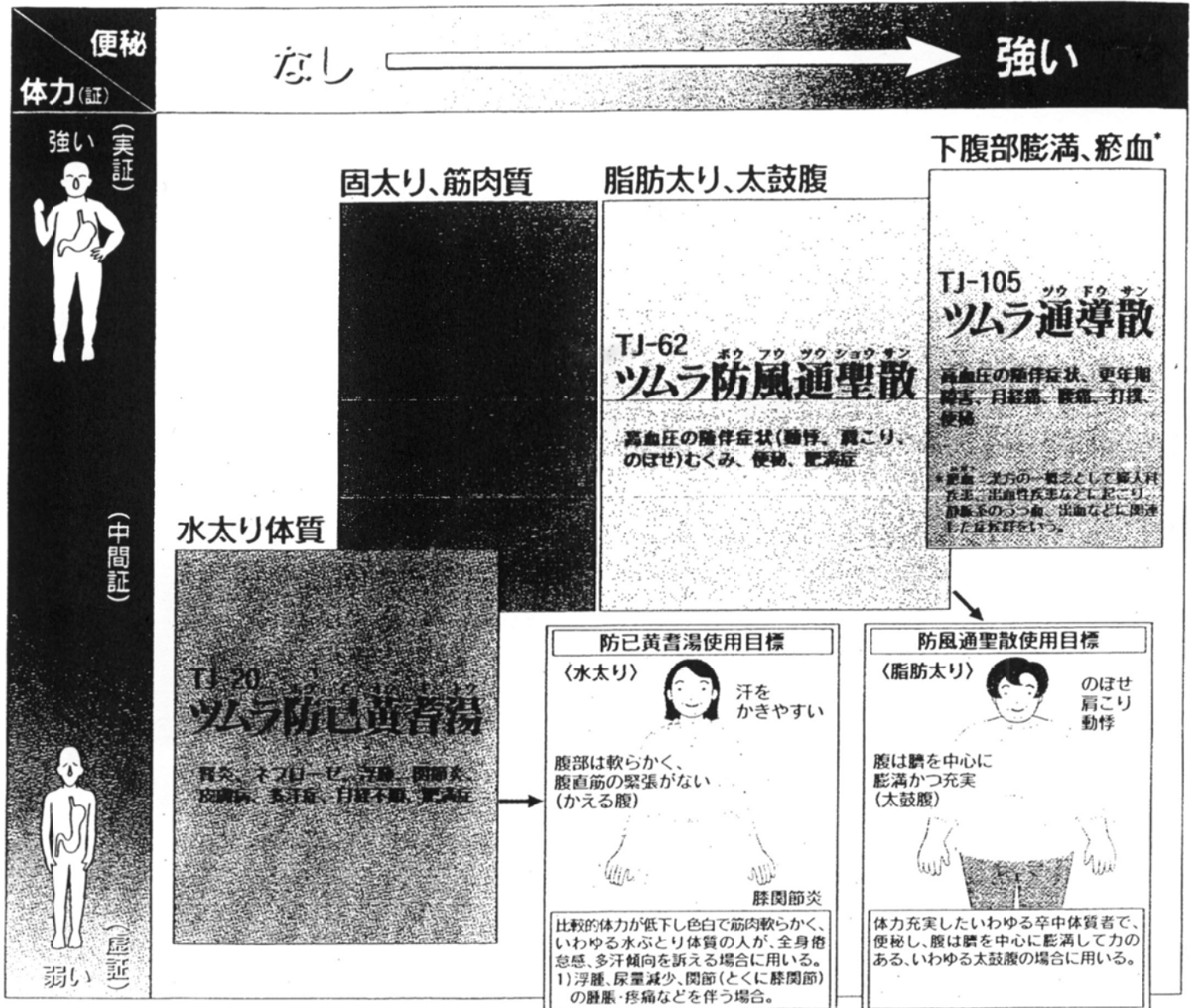


# 肥満症及び関連する疾患・症状の漢方治療ABC

[監修] 愛知学院大学心身科学部健康科学科教授、名古屋大学名誉教授 佐藤 祐造  
日本肥満学会理事、日本東洋医学会理事



## 漢方治療のポイント

- 漢方処方、体力・体質に応じて、何種類かを使い分けるとよりきめ細かなテーラーメイド的な治療が可能である。
- 漢方治療は、肥満症だけでなく併存する他の疾患も同時に改善させる(異病同治)ことが期待できる。
- 漢方製剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。

## 図の見方

- ◆上記の図は、漢方製剤を体力(証)と便秘の強さにより分類し、位置づけしています。
- ◆上記の図では、肥満を判断する目安として体型・体質(水太り、脂肪太り、太鼓腹など)を対比させています。

■上記の処方以外に、TJ-61桃核承気湯、TJ-63五積散、TJ-113三黄瀉心湯、TJ-133大承気湯などが使用されます。

この下敷は肥満症及び関連する疾患・症状に使われる主な漢方製剤をまとめたものです。効能又は効果、使用上の注意等は裏面をご覧ください。

## 肥満症について

- 肥満症とは\*  
肥満症とは肥満に起因ないし関連する健康障害を合併するか、その合併が予測される場合で、医学的に減量を必要とする病態をいい、疾患単位として取り扱う。
- 肥満症の診断基準\*  
BMI (Body Mass Index) を指標に判定する。  
BMI ≥ 25 のとき「肥満」である。  
BMI が 25 以上で、次の(A)または(B)のような状態であれば「肥満症」と診断される。  
(A) 肥満による健康障害: 2型糖尿病・耐糖能異常、脂質代謝異常、高血圧、高尿酸血症・痛風、冠動脈疾患(心筋梗塞・狭心症)、脳梗塞(脳血栓症・一過性虚血発作)、睡眠時無呼吸症候群(Pickwick症候群)、脂肪肝、整形外科的疾患(変形性関節症・腰椎症)、月経異常  
(B) 内臓脂肪蓄積の判定基準



◆ BMI = 体重 kg ÷ 身長 m ÷ 身長 m  
この指数 22 をもって標準体重の算出法とすることが日本肥満学会により提言されている。  
標準体重 = 22 × 身長 m × 身長 m

\* 肥満の判定と肥満症の診断基準(日本肥満学会)より